

国際校，日本メキシコ学院の現状

前日本メキシコ学院 日本コース 総校長
東京都文京区立文林中学校 校長 渡辺 静 雄

キーワード：国際理解，交流学習，学校経営

1. はじめに

日本による世界最初の国際校である日本メキシコ学院は、日本人学校である日本コースと、現地校であるメキシココースが同一の校舎を共有し、一つの学院、日本メキシコ学院（以下現地での通称、リセオを使用する）を構成している。1977年の創立当時から、日本国憲法前文に述べられている、「国際社会の中で名誉ある地位を占めたいと思う」という日本国民の願いを具現化する学校として、また教育基本法前文に言う、「人格の完成を目指す」教育活動を通して、尊敬される日本や日本人像をメキシコ社会また国際社会に発信していく責務を負っていた。

本稿は2011年3月11日から3年間に及んだ日本コース総校長職を通して、日本コースのみならず、メキシココースともかかわり取り組んだことをまとめたものである。

2. 日本コースに関して

(1) 教育内容

1977年の開校当時から、本校の教育の進め方について葛藤があった。日本とメキシコをつなぐ学校として、その基本理念は大変壮大なものだった。しかし実際の現場では、日本とメキシコをすり合わせるための大変な努力があった。開校当時の研究集録の校長所感には、「日墨の架け橋、世界初の国際学園、在外校の試金石など、故意に美化された虚像の報道が多い。実態に思いを致す時、ためらいの念を持つ。」と書かれていた。なにがそんなに大変だったのか。それはリセオに求められているものが、他の日本人学校で要求されているものと全く別物だったからである。

私自身が10年前、スペイン・バルセロナの在外施設で経験したのは、日本と同じ教育を在外でも保証するという通常の日本人学校だった。当然、在外にあることを生かしての現地理解や国際理解教育は行っていたが、あくまで追加であり、本筋でなかった。しかし、リセオでは建学の精神に基づき、学力保証と国際性の伸長が2本の大きな柱となっている。これが、他の日本人学校にはない特徴でもあり悩みでもあった。着任後、改めて日本コースの現状を把握し、具体的に課題を挙げると次のようになった。

- ① 保護者の声が学校経営に反映されていない。説明責任を果たしていない。
- ② 学校としての経営理念が明確でない。何を優先して取り組んでいくかが見えない。
- ③ 開かれた学校になっていない（成績の開示 評価基準の開示 外部への情報発信）。
- ④ 制度改革が進んでいない（2学期制 中学3年生の3学期の授業）。
- ⑤ 学力向上に努めていない。学力保証をしていない。
- ⑥ 新学習指導要領に対応していない。重点方針がない。
- ⑦ 小中連携の9年間を見通した方針がない。
- ⑧ 特別支援教育に対応していない。
- ⑨ 交流活動の評価をしていない。交流活動のシラバスがない。

上記のそれぞれの課題に対する次の解決策を、3年計画で実施することとした。

- ① 保護者からの要望があった場合、迅速に保護者会や意見交換会を開いた。経営方針などについて常に校長から説明を行い、情報交換を迅速かつ正確に行った。
- ② 校長が経営方針を徹底し、優先順位を明確に示した。
- ③ 年間評価について通知票を通して知らせた。評価基準と評価の仕方を前期末の保護者会で説明した。インターナショナルスクールとの連携や、日本コース専用のホームページを開設した。
- ④ 教育課程検討委員会を立ち上げ、学期制について検討した。2年目から2学期制のまま、評価のみ4期制を取り入れた。従来帰国受験が多いため実施していなかった中3の3学期の授業について、3月までの授業を保証した。
- ⑤ 夏休み前と冬休み前に学習評価をもとにした保護者面談を設定した。夏休み中の補習についても実施した。
- ⑥ 教育課程検討委員会で、重点方針の原案を作成し職員会に提案した。言語活動の充実に努めた。また中学の音楽・美術に英語によるイマージョン教育を取り入れた。
- ⑦ 小中合同校舎にし、物理的条件を整え、交流を増やすことで小中連携を推進した。
- ⑧ 相談活動を充実させるため、スクールカウンセラーを導入した。
- ⑨ 交流に関し、個人の記録を残しファイリングすることで、子ども達の成長や変容を確認した。また3年間の校内研修の成果として、交流活動について小1から中3まで9年間のシラバスを作成した。

(2) PTA 活動、運営委員会等

- ① PTA 活動の見直しを図り、バス業務については学校所管とした。
- ② 運営委員会の組織化を図り、小委員会方式を取り入れ、課題解決に取り組んだ。
- ③ 教育活動を活性化するため、保護者等によるボランティア活動を積極的に取り入れた。
- ④ メキシコにおける教育センターとしての役割を担うため、進路説明会等はインターナショナルスクールや、他の日本人学校にも積極的に参加を促した。またアグアスカリエンテス日本人学校の教員が、本校で研修する制度を作った。
- ⑤ 大使館との連携を強化するため、子ども達の大統領訪問を実施した。また書初め展を大使館別館で開催し、一般の方にも公開した。

3. メキシココースに関して

着任以来、同じ学院の敷地中にあるメキシココース（以下メコースと称する）とは、常に連携して学校経営を進めた。また2012年12月からは、学院長不在に伴う臨時措置として、学院アドバイザーとしてもメコースと関わった。具体的には、メコース運営委員会、同PTA、同校長会への参加を通して学校経営上のアドバイスを行った。こうした活動を通してメコースの現状を知ることができ、また同時に課題も見えてきた。私から見たメコースの課題とその解決策は以下の通りである。

(1) 現状

1990年台には1200名程の在籍があったメコースは、恵まれた教育環境と施設・設備に加え、日本コースとの交流を通しての国際理解教育への先進的取り組み、幼児教育の充実や開校以来行われている日本語教育の伝統など、多くの強みを持っている。しかし2012年度は850名程の園児（150名）・児童（370名）・生徒（中学190名、高校140名）となり、最盛期に比べると3割程の減少となった。こうした現状から学校改革が叫ばれ、2009年には理事会において10年ビジョンが出され、2012年までの中期経営目標も設定された。そこには、生徒数1000名、役割分担と権限の明確化、学力アップ、生徒・保護者・教職員の満足度アップ、教職員の能力アップ等が述べられている。しかし、現状はどの項目に関しても具体的な取り組みがされておらず、生徒数も1000名を下回った

ままである。また2012年、2013年度の新年度への取り組みを見る限りでは、改善や新しい施策は表面的であり、場当たりのものが多かった。理事会やメコース運営委員会が考えていることが現場にいきわたらず、毎年同じことを繰り返しているようにしか見えなかった。また学校にとって一番大事な教育方針に基づいた教育課程の編成や、保護者・生徒の声を教育活動に生かすことができていないという現状があった。

(2) 課題

改革にあたってよるべきところは、第一に確固たる経営方針であり教育方針であると考え。しかし、この点については理事会マターであるので現場としての課題をあげる。

① ニーズに合った教育課程の編成がなされていない

学校経営において第一に取り上げるべきは、保護者・生徒のニーズである。どんなに崇高な経営方針や素晴らしい教育課程があろうと、それが保護者・生徒のニーズに合っていないければ画にかいた餅である。

② 適切な人材育成がなされていない

教員の育成は学校における最重要課題である。授業力のある教員は、学校の大切な財産となる。授業力のある教員を育成し、メコースのために長く働ける環境を整えることは、経営上大切なことである。

(3) 解決策 ※次ページ【改善案】参照

① 学校評価を導入し、教育課程を編成する

経営方針に基づいた教育課程を、少なくとも5月に編成する。それをもとにプロモーションを実施して、新学年に備える。保護者説明会、新入生対象の学校説明会を6月に行う。また教育課程の進行管理をするために、12月と3月に学校評価を保護者と教職員に対して行い、修正を行う。

② 人事考課制度を導入し、人材を育成する

経営方針に基づいた自己申告書（目標、方策等）を年度当初に教職員に提出させ、各セクションの長が面接を行う。これにそって各長が授業観察や職務観察を行い、3月には中間面接を行う。その間適切に校内研修を行い、フォローアップする。また6月の最終面接では人材育成のための評価を行い、教師力を向上させる。このために勤務時間を1時間延長し、その給与保証を行う。

4. おわりに

グローバル人材の育成が盛んに言われている今、その実現の最も近いところにいる学校がリセオであると確信している。グローバル人材とは、「知・徳・体」バランスの取れた人材にほかならず、日本・メキシコ両コースを有する本校は、その環境を利用し両コースがたがいに高めあうことにより、世界に通用する人材育成を図ることができる。主な利点は次の通りである。

知の面では、両コースの競い合いが期待できる。

共通学力調査の実施（小3、小6、中3）により、教員の授業改善を図る。また研究授業の実施と研究会を両コース共催で開催し、さらに指導法の向上を目指す。

徳の面では、両コースの比較をキーワードにする。

AIMS（道徳教育）を中心とする活動に、日本コースも積極的に参加し、きれいな学校、明日も来なくなる学校を実現する。また道徳の合同授業で価値観の相互理解を目指す。

体の面では、両コースの協働が期待できる。

リセオの伝統行事、合同運動会への取り組みさらに推進する。合同演技を増やしていく。また合同クラブへの日本コースの参加を増やしていく。

メキシココースあつての日本コースであり，日本コースあつてのメキシココースであることを忘れずに，リセオがますます発展していくことを願ってやまない。

メキシココース改善案

	現 状	改善案
8月	新学期準備，当該年度教育課程編成， <u>新学期</u>	<u>新学期</u>
9月	教育課程調整	自己申告書提出，人事面接①
10月		校長による授業観察
11月	満足度アンケート（生徒，保護者，教職員対象）5段階評価で，授業・施設等について調査	授業研修
12月		学校評価①→改善，評価公表
1月		校長による授業観察
2月		研修
3月	満足度アンケート集計→校長ミーティング→教員評価	学校評価②→改善，評価公表 人事面接②
4月	教員採用開始	次年度教育課程編成
5月		次年度教育課程完成
6月	新入生説明会（内部） 業績評価	保護者説明会，人事面接③・業績評価，入学説明会（プロモーション）
7月	<u>卒業式</u>	学校評価③，教員採用 <u>卒業式</u>